

城を歩く会 2月定例会「国会・憲政記念館、桜田門付近の史跡を訪ねる」

加藤清正、井伊直弼上屋敷と 「桜田門外の変」を歩く

平成28-2-13
山岸弘明

本日の主要行程

- 10時00分
- 10時15分～12時20分
- 12時20分
- 13時00分～14時00分
- 14時00分～16時00分
- 16時00分ころ

- 「永田町駅」2番出口集合
- 憲政記念館および庭園（加藤清正邸＝昼食休憩を含む）
- 集合、衆議院集合場所へ移動
- 衆議院見学、記念撮影
- 井伊家上屋敷跡、井伊直弼登城コース、桜田門
- 「桜田門駅」前解散

当面の例会スケジュール（詳細は会報を参照ください）

- 3月15日（火曜日）日帰りバス「戦国期、西武蔵・東相模の北条氏の3名城をバスでめぐる」（滝山城、八王子城、津久井城）
- 4月 8日（火曜日）4月例会「佐倉の城と花見」（本佐倉城、佐倉城）
- 5月19日（木曜日）日帰りバス「栃木県大田原周辺の城をバスで訪ねる」
- 6月 6日（月曜日）6月定例会
- 7月下旬 夏季研修会

加藤清正邸、井伊直弼邸の現況～

- 千代田区永田町1丁目①番地 憲政記念館、日本水準原点標庫、国会前庭北地区洋式庭園、首都高速都心環状線
- ⑦番地 国会議事堂の一部（国会正門前から左側、参議院北門まで）
- ⑧番地 国会参観バス駐車場、社会文化会館



加藤清正像（勲持院藏）加藤清正（1562～1611）は、豊臣秀吉子飼いの部将。のち家康に従う。石垣築造の名手の一人で、名古屋城のほかにも多くの石垣を築く

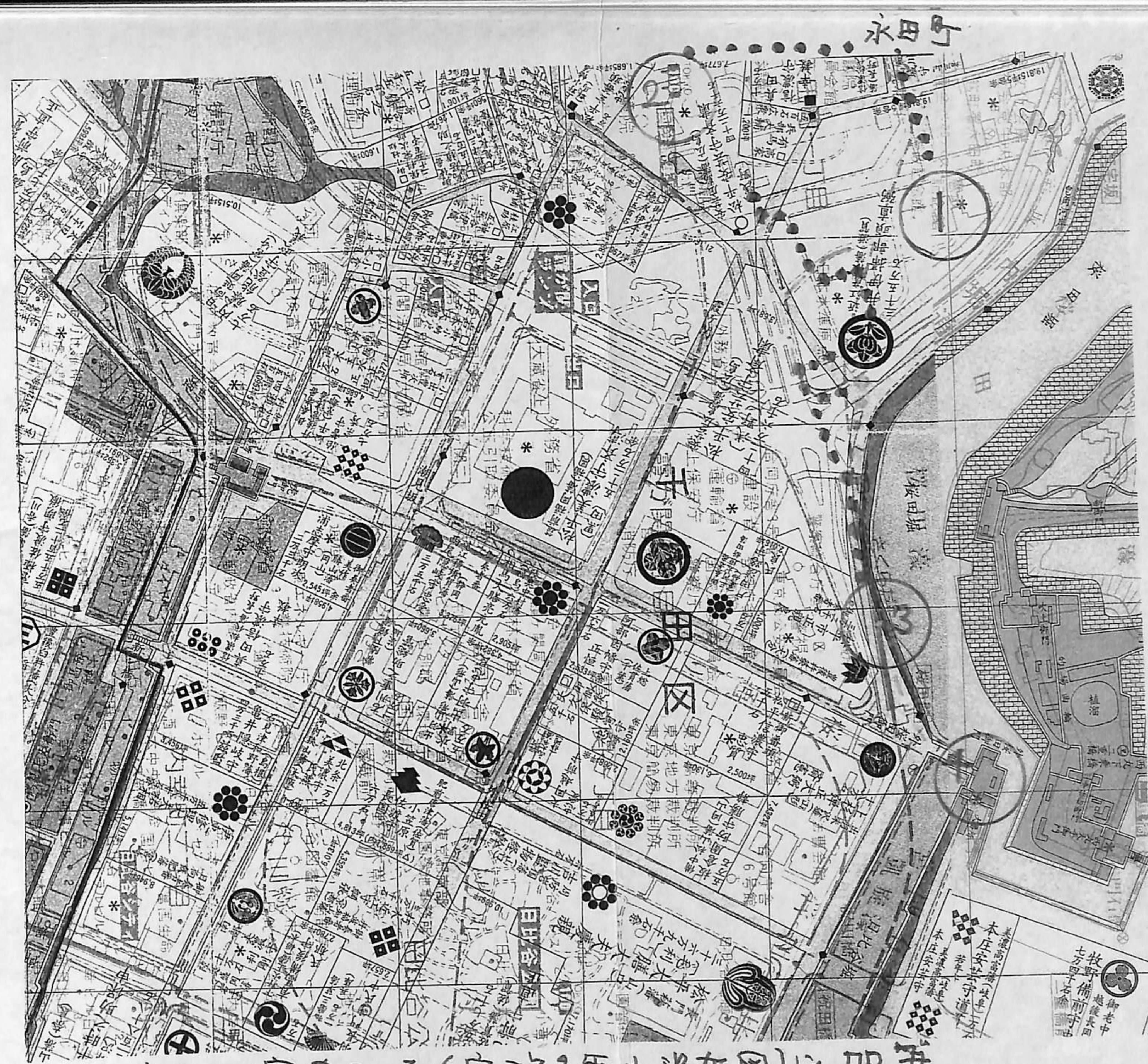


名古屋城の清正の石垣の像



■井伊直弼肖像

黒船来航後の混乱に対処した井伊直弼。将軍継嗣問題で一橋派、南紀派が激しく対立した影響で肝心な時に幕府は一枚岩になれず、内政は混乱した（清涼寺蔵）



本日のご案内コース（安政3年+現在図）に加筆



江戸中期の永田町周辺



明治20年代の永田町、霞ヶ岡

永田町1丁目憲政記念館周辺の歴史変遷

関係年表～

- 1603 慶長8年 熊本52万石加藤清正、外桜田に屋敷地およそ2万坪を拝領、清正桃山殿舎を造営
- 1606 〃 11年 清正、江戸城手伝い普請
- 1610 〃 15年 清正、名古屋城普請手伝い
- 1611 〃 16年 清正没、嫡子忠広が家督相続、幼少のため藤堂高虎が監督
- 1615 〃 19年 忠広、大坂冬の陣に出兵
- 1616 元和元年 大坂夏の陣で重臣に大坂内通の風聞たつ
- 1619 〃 4年 藩内内紛表面化、將軍直裁で美作派処分される
- 1628 寛永5年 忠広、江戸城石垣普請
- 1632 〃 9年 忠広、徳川忠長事件に連座除封、出羽庄内酒井忠勝に預けられる
熊本加藤家上屋敷19, 815坪を彦根25万石井伊直孝が拝領
- 1633 〃 10年 直孝5万石加増、城付き米5万石を合わせ35万石となる。
直孝は秀忠、家光、家綱3代に大老の上位の執権として幕閣を切り回す
このころを画いた歴博本「江戸図屏風」に井伊掃部頭邸を記載(別掲)
- 1635 〃 12年 直孝の上屋敷を將軍家光式正御成り
- 1659 万治2年 直孝没、4男直澄3代藩主となる
- 1668 寛文8年 直澄、4代家綱の大老となる
- 1697 元禄10年 4代直興、5代將軍綱吉の大老となる
- 1711 正徳元年 直興が隠居し、5代直通、6代直恒が継ぐが相次いで死去、直興が直治と改名して8代藩主に返り咲き、7代將軍家継の大老に再任
三宅坂側物見庭接続地、旗本屋敷、御堀端道敷3700坪を添屋敷として拝領
- 1784 天明4年 12代直幸、10代將軍家治の大老となる
- 1835 天保6年 14代直亮、11代將軍家斉の大老となる
- 1858 安政5年 15代直弼、12代家慶、13代將軍家定の大老となる。「安政の大獄」始まる
- 1860 安政7年 (万延元年)「桜田門外の変」で井伊直弼暗殺される
直弼の死を病死として長男直憲が相続
- 1862 文久2年 直憲10万石を削封、25万石となる
- 1868 慶応4年 (明治元年) 鳥羽伏見の戦いで新政府軍に味方、幕府軍大敗の原因を作る
維新の戦いは官軍として奥羽を転戦した
- 1875 明治4年 廃藩置県。井伊直憲邸となる。明治8年まで居住
- 1876 〃 9年 陸軍省を有楽町から移転(昭和16年まで)
- 1878 〃 11年 陸軍省内に参謀本部を設置、昭和12年大本営陸軍部となる(昭和20年まで)



加藤・井伊
上屋敷跡



清水の井

江戸の名水「櫻の井」

加藤清正、井伊直孝邸跡
の桜田内方向を望む

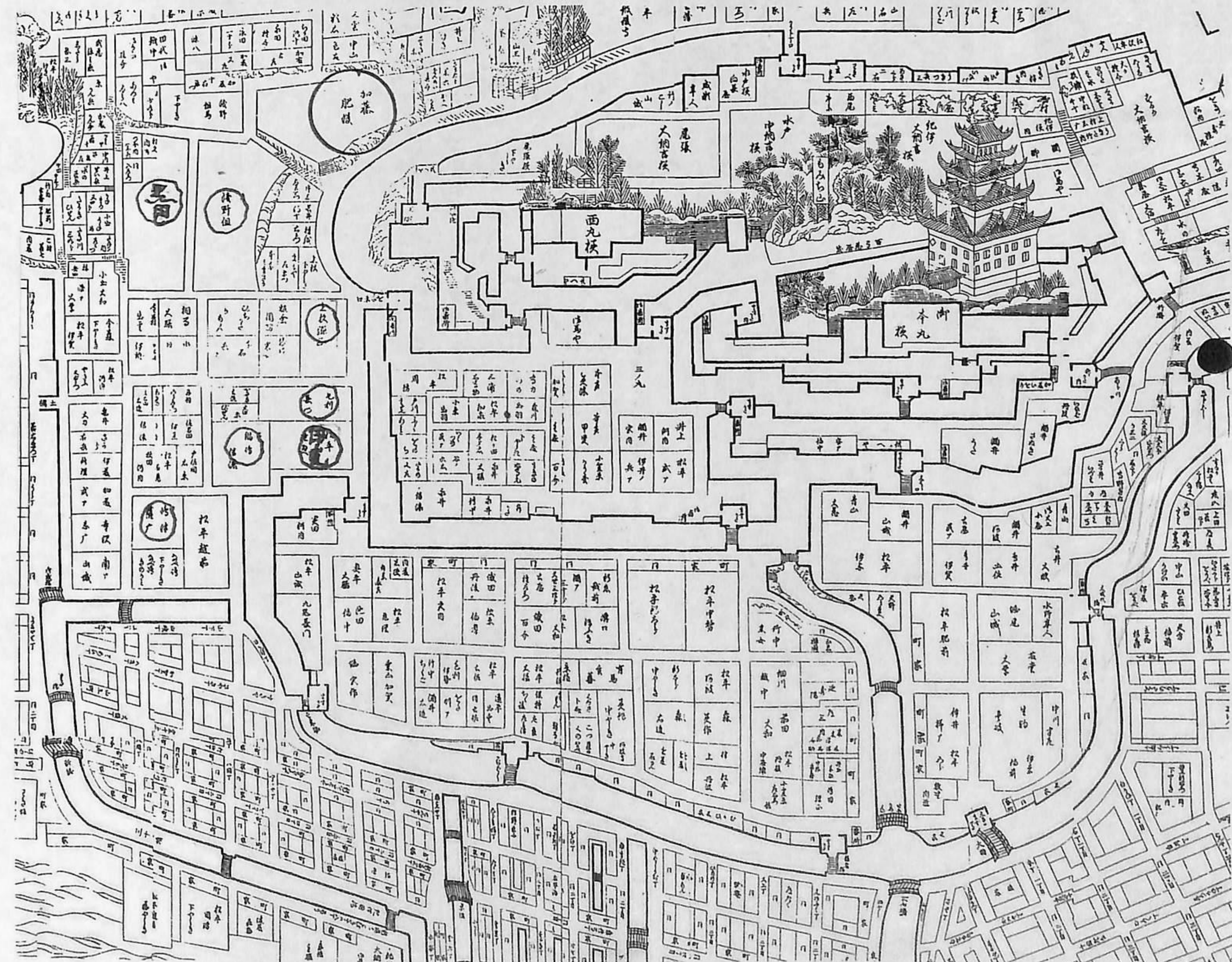
「江戸図屏風」に見る加藤清正江戸屋敷

加藤清正(1562～1611) = 豊臣秀吉母・仲の一族で斎藤道三の遺臣加藤清忠の一子。近江長浜時代の秀吉に仕え、長浜に知行を与えられた。天正11年の賤ヶ嶽の戦いで「賤ヶ嶽の七本鎗」の一人として活躍し、戦後3000石を与えられた。九州征伐後の天正15年肥後の内熊本25万石に栄進。朝鮮出兵では戦功が抽んでたが石田三成と衝突、讒言されて帰国、謹慎を命ぜられ、慶長元年の近畿大地震で伏見城に駆けつけて解かれた。関ヶ原の合戦は東軍に味方して九州各地を戦い、肥後一国52万石に加増され、8年正室玉目丹波娘正応院を江戸に差し出して江戸屋敷を拝領した。名古屋城築城などで手腕を発揮して築城の名人とされ、深く日蓮宗に帰依した。慶長16年熊本城で没、50才。熊本の本妙寺に埋葬。
加藤忠広(1601～1653) = 清正の嫡子。慶長16年父の死で熊本藩主を相続、同19年徳川秀忠の養女・蒲生秀行の娘を正室に迎え偏諱を与えられた。若年のため藩内の動揺が続き、大坂の陣では豊臣方へ内通したなどの風説が流れた。元和4年重臣が藩を二分する御家騒動を起し、寛永9年徳川忠長事件への加担などを理由に除封された。出羽庄内藩へ配流、承応2年同地で没、葬地は庄内の本住寺。

1) 外桜田、外様雄藩の江戸屋敷拝領

① 外桜田地区、地名の由来

* 桜田郷 = 日比谷入り江沿いの平安朝時代の地名で、桜樹が多かったことによる。家康入府直後の「別本慶長江戸図」は「町人物上げ場、肴屋、網屋、板屋いろいろあり、小田原口門、これ



寛永14年江戸図 〇印加藤忠広(後の井伊氏)上屋敷

より柴の浜へ続く」など、中世の面影を伝えている。

*霞が関=日本武尊のエゾ征伐の時関を築いた。大和から霞をへだてた遠隔地という意味

*永田町=家康の江戸入り直後、永田姓の旗本が居住した

②江戸屋敷の第1号は加賀前田家で、利家の嫡子利長が慶長5年、母まつを人質として江戸に差し出して大手門前に邸地を拝領した。ついで藤堂高虎、堀秀治、細川忠興らが続いた。次期將軍は家康だ、関ヶ原の戦いの勝利を目の当たりにした諸大名は次々と妻子を差し出して屋敷地を拝領した。

*江戸始め、城回りに徳川忠長、越前、御三家、前田邸などの豪華藩邸が建造された

③外桜田地区は伊達政宗が始まり、慶長6年京都伏見に上洛したとき日比谷公園の有楽町側を拝領、幕府の賜邸は名ばかり、おおむね縄張りされた土地を宅地造成して建造物を建てた。

江戸時代ははじめのころ日比谷公園から永田町、霞が関にかけて伊達政宗、毛利秀就、上杉景勝、浅野幸長、加藤清正、黒田長政ら織豊期武将邸が続いた。大名屋敷は城造りと同じ、周囲に石垣、白漆喰壁と長屋を回し角櫓を上げ、華麗な2階建て櫓門、唐門御成り門と御成り御殿、玄関、大広間、大台所、書院を連ねた。

④伊達家=織豊期、政宗は東北一の大名となり米沢を拠点としたが秀吉の小田原征伐をみて降伏、関ヶ原の戦いは徳川方に有り、上杉景勝と戦って加増、仙台に移った。

*仙台 62 万石伊達家外桜田上屋敷=現在千代田区日比谷公園①番地 都立日比谷公園有楽門側 慶長6または8年拝領およそ2万坪、寛文元年上地

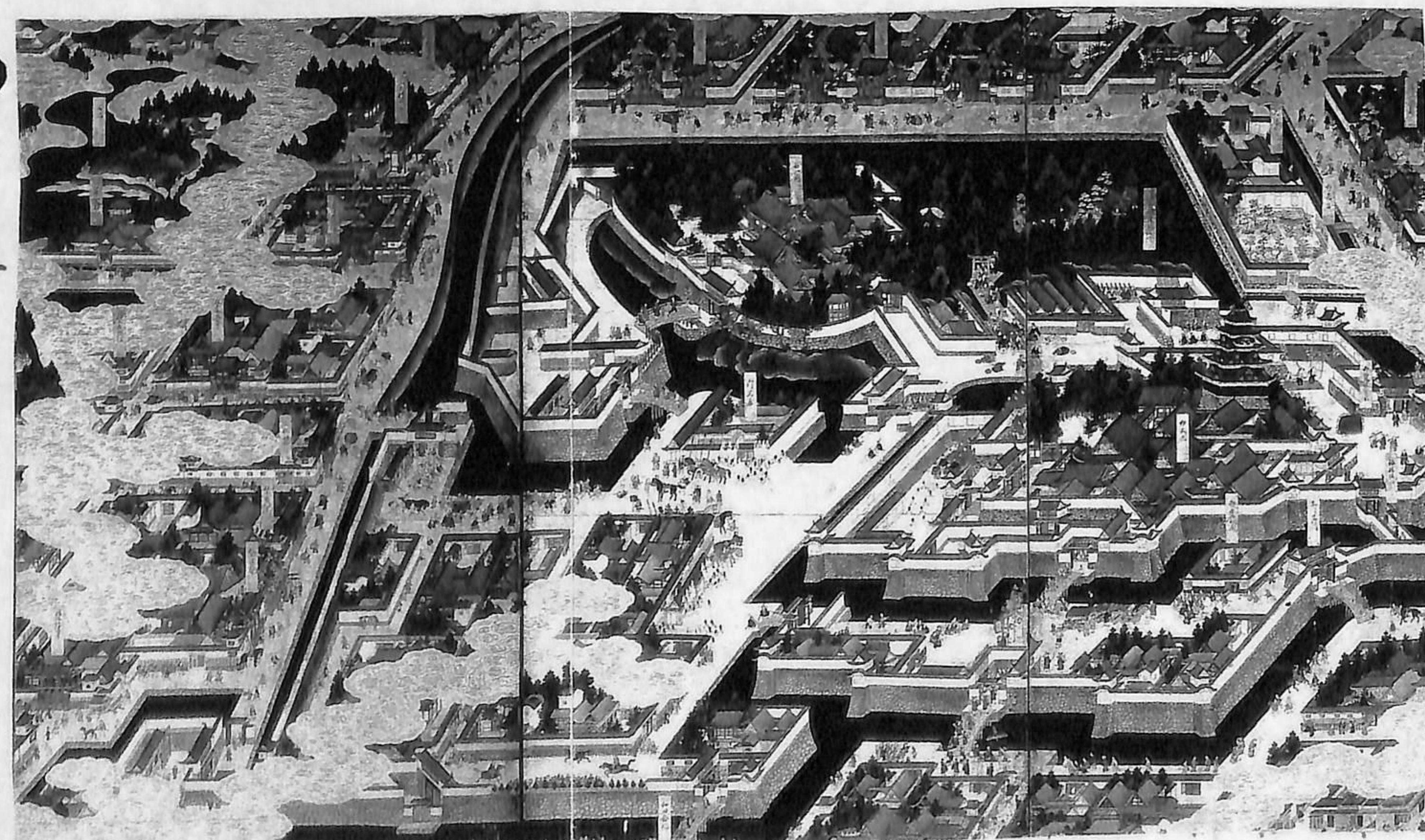
⑤毛利家=輝元は中国8か国の太守で秀吉5大老の一人であったが、関ヶ原の戦いで西軍の総大将にかつがれたため防長2か国に減封された。13代敬親が藩政改革に成功、幕末は薩摩と組んで倒幕に成功、維新に多数の人材を輩出した。

*山口 36 万石毛利家外桜田上屋敷=現在千代田区日比谷公園①番地 都立日比谷公園祝田門側 慶長8年拝領17,100坪、元治元年第2次征長に先だつて没収

⑥上杉家=景勝は関ヶ原の合戦で石田三成に呼応して西軍についたため会津120万石を没収され米沢に移された。3代綱勝の後吉良上野介の長子が跡を継ぎ、治憲が藩政改革にあたった。

*米沢 18 万石上杉家外桜田上屋敷=現在千代田区霞が関1-①番地 法務省、合同庁舎6号館、法曹会館、人事院 慶長8年拝領 7,432坪

⑦浅野家=長政は豊臣秀吉の相むくとして重用された。関ヶ原の合戦は幸長が東軍に与し、和歌山37万石をへて広島42万石に進んだ。



寛永年間「江戸四屏風」

*広島 42 万石浅野家永田町上屋敷=現在千代田区霞が関①番地 合同庁舎2,3号館、国会前交差点周辺道路敷 慶長10年拝領13,681坪、文政8年添え地拝領、最終17,396坪

*広島浅野家永田馬場中屋敷=現在千代田区永田町1-⑦番地 国会議事堂正面玄関周辺。 慶長10年拝領6,801坪、元文5年相対囲み込み860坪、最終7,661坪

⑧黒田家=長政は関ヶ原の合戦で小早川秀秋、吉川広家に内応させ、加藤清正らを従えて九州北西部を平定した。忠之が黒田騒動を乗り切った。

*福岡 52 万石黒田家上屋敷=現在千代田区霞が関2-②番地 外務省、文科省別館 慶長8年ころ拝領およそ21,000坪

⑨外桜田地区のその他の有力外様大名上屋敷=薩摩島津藩、佐賀鍋島藩

2) 豪華絢爛、「江戸四屏風」にみる有力外様大名と加藤清正江戸屋敷

①歴博本「江戸四屏風」

6曲1双、本間屏風

作者不明、落款署名なし。

制作年代不明だが「寛永時代」の江戸を画く

②張り紙(後付け説もある)=井伊掃部頭邸(加藤清正邸)

*熊本 52 万石加藤家外桜田上屋敷=現在千代田区永田町1丁目①、⑦、⑧番地 慶長8年拝領およそ20,000坪、寛永9年1月改易没収

*彦根 35 万石井伊家外桜田上屋敷=現在 〃 寛永9年拝領19,815坪、明治維新まで

③有力大名の屋敷構造

*周囲を石垣、白漆喰壁、長屋(家臣居住)が囲む。角櫓を上げる

*表門=瓦葺き櫓門または大棟門。華麗な彫刻装飾を競う

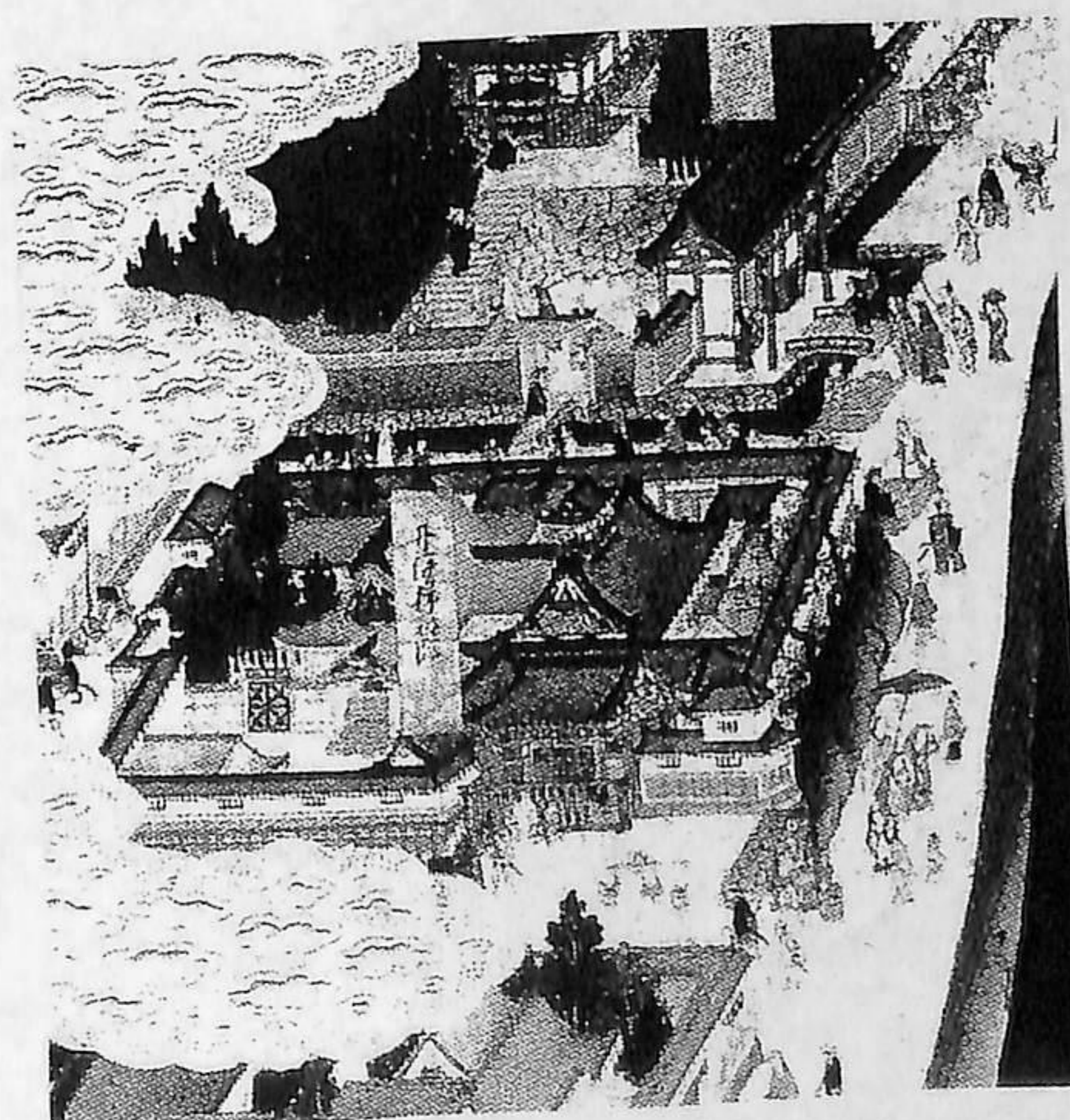
*御成り門(將軍の来訪に備えた臨時の正門)=檜皮葺き唐門(絵図の井伊家にはない)

*檜皮葺き玄関、遠侍、広間、書院

*上屋敷庭園、数寄屋

④建築技術は安土桃山文化で培われた築城技術の結晶

⑤明暦大火後、豪華絢爛の江戸屋敷は姿を消した。



「江戸四屏風」にみえる 井伊家、実は加藤家



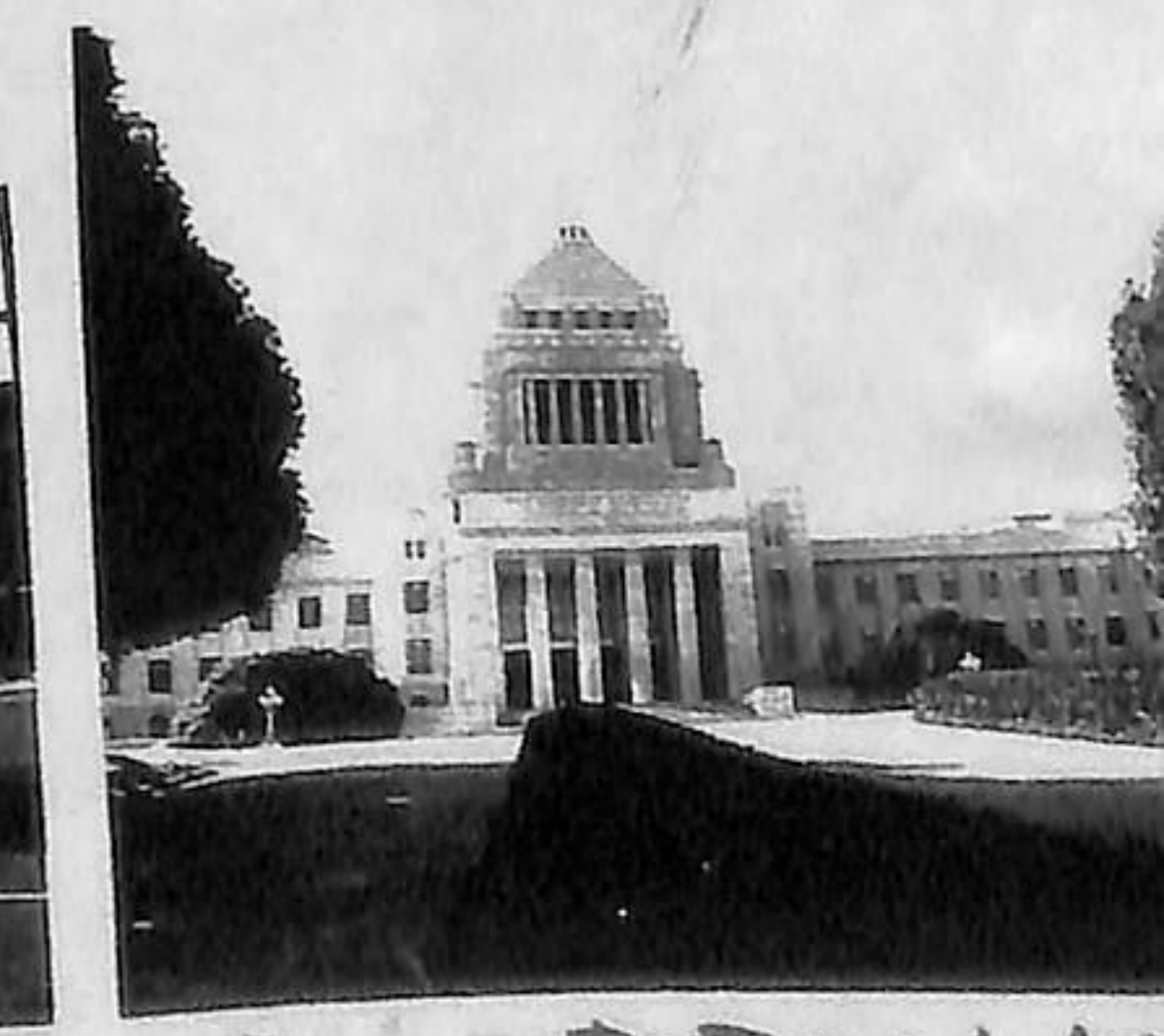
忠成公邸



桜田邸



浅野家上屋敷



加藤家上屋敷

幕末維新へと急旋回、井伊直弼桜田門外に死す

井伊直弼 (1815~1860) =文化12年11代彦根藩主直中の14男として誕生、嘉永3年兄直亮の死去で相続、安政5年大老。徳川慶喜擁立運動を抑えて紀州徳川慶福(家茂)を14代将軍にすえ、勅許を待たずにアメリカ、イギリス、オランダ、ロシアと通商条約に調印した。公卿と尊攘派の浪士らが画策する反対運動を抑えるため「安政の大獄」を断行、水戸藩に降下した密勅の返納を迫ったことなどが浪士たちの反感を買ひ、安政6年江戸登城を襲われ桜田門外で横死した。46才。去年世田谷の豪徳寺、直弼の墓を訪ねた。

1) 反幕府派を弾圧~井伊直弼の「安政の大獄」

①ペリー来航と開国

嘉永6年(1853)ペリー率いる黒船艦隊が江戸湾の浦賀沖に現れ、強圧的に開国を迫った。幕府は事前にオランダを通じて予告を受けたが、日和見を決め込んでいた。翌安政元年、ペリーが再来航すると黒船の大砲に怯えた幕府は、なしくずし的に開国策を取り、250年間続いた「鎖国」が破れた。幕府はアメリカ総領事ハリスのおどし外交に「通商条約」の締結もやむなしと判断するが、攘夷の世論は高まるばかりであった。

②将軍継嗣問題

さらに混迷を深めたのは12代将軍家慶の急死であった。跡を継いだ家定は極端な病弱でどうもてい国難を乗り切れない。幕府内では「次期将軍」が取りざたされて一ツ橋慶喜派と南紀慶福派に分かれた。こうした中の安政5年、南紀派の工作で登場したのが大老の井伊直弼であった。直弼は反対する朝廷の勅許を得ることなく「日米修好和親条約」に調印、次期将軍を慶福(家茂)と発表した。就任から3か月、家定逝去まで1か月というタイミングの良さであった。

③安政の大獄はじまる

政敵である一ツ橋派人物一掃の第一弾は、水戸斎昭、慶篤、尾張慶勝、一ツ橋慶喜の押しかけ登城事件で、御三家、御三卿への隠居、謹慎などの重い処分となった。

④水戸藩に下された勅諭の回収

直弼の強権発動で一ツ橋派の動きは封じられたが、京都の尊攘派はとまらない。朝廷を動かし、幕府と水戸藩へ勅諭が下された。条約調印と水戸藩などへの処罰を責め、御三家などとも群議して外夷的の侮りを防ぐようにとの趣旨であった。直弼は水戸藩に勅諭の返還を命ずる一方、

井伊家供廻りの人数は60、対する襲撃者はわずか18。多勢の井伊側があっさりとしたのは何故原因だったのか。

①雪に備えて、羅紗や油紙の袋で刀の鞘を覆い、さらにその上から柄袋をはめて鍔や目貫(金具)を護っていた。これでは、とっさに刀が抜けるわけがない。

②最初、行列の前にひとりの浪士が「捧げます」と叫んで進み出てきたため、「駕籠訴」だと誤認した。

③急襲に混乱し、度を失った。これに対し、襲撃者の動きは計画的で隙がなかった。大老側は、前もって「水戸藩に不穏の動きあり」との報告を受けていたが、まさか江戸城のまん前では襲われないと考えたらしい。権力を過信すると油断が生まれるという好例だ。



危機管理に手落ちあり！
油断だらけの井伊家警護衆



襲撃に参加した水戸浪士・運田市五郎が獄中で描いた「桜田門外襲撃図」。(早稲田大学図書館蔵)



「桜田門外」の地

上は襲撃の主謀者・高橋多一郎部品の短銃(「動乱遺物集」より)。右の襲撃隊にも、短銃で狙う男の姿が描かれている。(拡大図)

尊攘志士たちの弾圧を深めていった。

⑤「安政の大獄」で志士たちを処刑

大獄の処分は尊攘派公卿、大名、藩士、浪士におよんだ。逮捕者の処罰は過酷で、処刑者は100人余り、死罪者に吉田松陰、橋本左内、頼三樹三郎がいた。

⑥飛ぶ鳥落す勢いの大老直弼が幕府の独裁権力を誇示するために行った空前の凶行であったが、一方、処刑された志士たちの残した種が明治維新へと開花することになる。

2) 「桜田門外の変」~直弼暗殺の地を歩く

①安政7年(万延元年=事件後改元)3月3日(新暦24日)総登城日

天候=(夜半)雪→(事件時)みぞれ→(のち)うす日

五つ半(午前9時ころ)直弼は籠で上屋敷止門を出発。登城口の桜田門まで全長400m

②供回り徒歩=上士15名(後出)、足軽、かごかきなど軽輩のもの45名、合計60名

護衛の士分は雨かっぱを羽織り、刀柄、さやに雨除け袋をかけた重装備で戦闘体制になかった。

③浪士の襲撃計画=前年安政6年から水戸藩士高橋多一郎、金子孫二郎中心に計画、安政7年直弼から密勅返納圧迫で具体化した。

④2月国元在住者は分散して江戸入り、3月2日品川・相模屋で決別の酒宴、決行を総登城日の明3日と決定、藩に類が及ばないよう除籍願いを作成した。

⑤明けて3日は「犬も味方した大雪」。愛宕神社に集合して桜田門へ。すでに「大名武鑑」片手の登城風景見物者もちらほら、浪士らは見物を装って直弼の行列を待った。

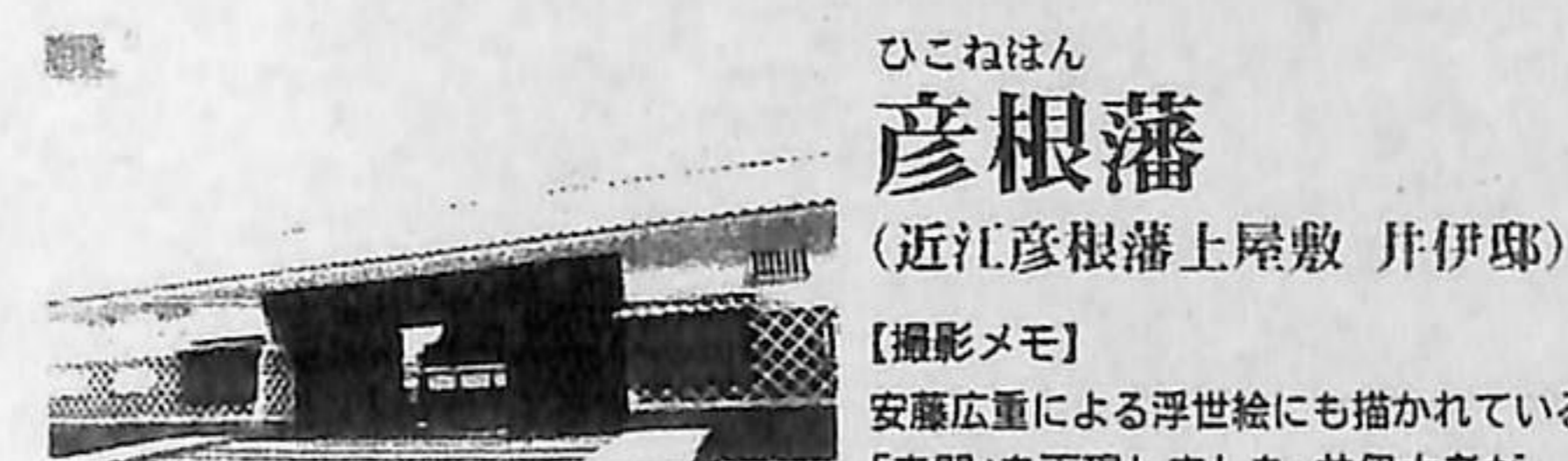
⑥桜田門まであと100m、直弼のかごが松平杵築藩邸脇にさしかかった所で駕籠訴を装った森五六郎が行列の先頭に駆け寄った。制止する井伊家の侍をいきなり切り付け、護衛の注意を前に引きつけたところで黒沢忠三郎が合図のピストルを駕籠めがけて発射した。弾丸は直弼の腰から太ももを貫通、この一発で直弼は瀕死の状況となった。

⑦浪士隊は抜刀して直弼の駕籠に殺到する。侍たちは重装備で刀も抜けない。素手や柄のまま戦ったが切り倒され、多くは算を乱して遁走した。守る者がなくなった駕籠脇から稲田重蔵が一太刀、有村次左衛門が血まみれの直弼を引き出して首を落とした。その間わずか10分の出来事であった。

⑧浪士隊氏名(後出)

桜田殉難八士=岩崎徳之進(伊賀奉行)、小笠原秀之丞(小姓)、加田九郎太(騎馬徒士)、河西忠左衛門(剣豪)、日下部三郎右衛門(物頭)、越石源次郎、沢村軍六、永田太郎兵衛無傷帰邸のため入獄、斬首=朝比奈三郎八、朝比奈文之進、小幡又八郎、小島新太郎、長野十之丞、藤田忠蔵、水谷求馬

⑨事件を契機に幕府権威は失墜、急坂を転げ落ちるように討幕、明治維新へと進んだ。



ひこねはん
彦根藩
(近江彦根藩上屋敷 井伊邸)

【撮影メモ】
安藤広重による浮世絵にも描かれている「赤門」を再現しました。井伊大老が侍など約60名を従えて江戸城に向かうシーンの撮影が行われました。

近江彦根藩 十五代藩主 井伊直弼 井伊掃部守
(三万石・滋賀県彦根市) (なおすけ) (いいかもんのかみ)

初代井伊直政は、徳川四天王のひとりとして多くの武功をたてて活躍しました。直正の長子直継は慶長十一年(1606)に彦根に入城するも大坂の陣に参陣できなかったことを理由に直勝と名を改め、安中藩に移封となりました。継いで弟の直孝が二代藩主として就任しました。直孝は幕閣の中樞として活躍を認められ、三度の加増がなされ、文字通り譜代筆頭となりました。有力譜代大名が転封を繰り返す中、彦根藩は一度の転封もありませんでした。上屋敷のあった一帯は、江戸時代初期には肥後熊本藩主加藤清正の屋敷でした。加藤家は二代忠広の時に改易され、屋敷も没収されました。その後、近江彦根藩主井伊家が屋敷を拝領し、上屋敷として明治維新まで利用しました。現在は国会前庭北地区となっています。



きつきはん
杵築藩
(豊後杵築藩上屋敷 松平邸)

【撮影メモ】
岡鉄之介は現場指揮官であったため、襲撃のものには参加せず、その一部始終を見守っていました。その場所が、杵築藩邸の角になります。また、門の前では黒沢忠三郎が井伊大老を襲った瞬間を指して発砲した場面が撮影されました。

豊後杵築藩 九代藩主 松平親良 松平大開守
(三万二千石・大分県杵築市) (ちかよし) (まつだいらおすすみのかみ)

正保二年(1645)小笠原氏に代わって松平英親が豊後高田藩より転封されました。以降、明治維新まで能美松平家が治めました。事変の時、ここからその現場を目撃した記録が残っています。それには「意下騒がしきにつき、何事かとのぞき見たところ、…大兵の男(有村次左衛門)一人、並背の男(岡田十之次郎)一人、髪髯を目かけ袷を着た主人を引き出し…大兵の男、首を切り刃につらぬき大音を発す。その声前後しかと相わからず、「井伊掃部」とまで聞こえ候…」とあり、襲撃の現場をよく伝える内容となっています。一方、杵築藩では「他所から聞き合わせがあっても、詳しく話さないこと。屋敷内でもこのことの話をしてはならない。」と申しつけ、藩主松平親良は幕府に「控」(謹慎)の願を出し認められ、領内も「諸事急度慎相慎み、普請鳴物相成らず」となりました。現在は警視庁があります。

映画「桜田門外」セットに於て肉弾隊

